

第5節 7日目：7月1日（水）：小砂川～本楯 曇り／雨

秋田・山形・群馬の旅の第7弾は、7月1日（水）曇り雨の中、小砂川駅から本楯駅までの営業キロ21.5kmに挑戦する。朝、ホテル（魚民）で朝食をとってからの移動となる。本日は、酒田駅までの踏破を考えていたが、南鳥海駅を過ぎた辺りから大雨に遭遇し、本楯駅で断念する。しかし、運よく数分の待ち合わせで酒田行の電車に乗れる。



※魚民での朝食、小砂川駅

本日2回大雨に遭遇した。一回目は遊佐駅に向かう際、二回目は本楯駅に向かう際。加えて、この区間は水田が一杯で道筋が途切れる場面が多く登場する。また、大雨のために道筋を十分に確認できず、これまでの第六感を頼りに歩いた。その分無駄な歩きが多々あり相当の労力を費やした。ただ、リュックを背負っていなかったため、労力の軽減があり助かった。今回の旅で最も苦しい環境であったかも知れない。今思えば、やり抜くことの大切さを、改めて自分なりに勉強できた区間であった。

本日の駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

小砂川（8:33）～女鹿（めが、10:12）～吹浦（ふくら、11:24）～遊佐（ゆぎ、14:16）
～南鳥海（15:46）～本楯（もとたて、16:46）

①8時39分、上浜郵便局前を通過。9時、7号線に合流する。9時17分、秋田県と山形県の県境にさしかかる。9時28分、和牛がトラックで輸送される場面と対面する。9時35分、三崎公園の案内板前を通過。この境界の海岸線の景観は最高であった。男鹿と女鹿の地名の由来がわかったような気がする。10時4分、数年前、カタツムリと対面する。数年前の宗谷本線（佐久駅から箆島駅）の場面を思い出した。10時8分、アマハゲの里があった。10時12分、女鹿駅に到達する。朝、上り列車を待機するための線路があった。



※上浜郵便京、山形・秋田県の県境



※和牛運送トラック、三崎公園



※カタツムリ、アマハゲの里（女鹿）、女鹿駅への案内



※女鹿駅と時刻表

②吹浦駅への道筋、国道を下りられる道路がなく、もしかすると通り過ぎたのではないかと何度も疑心暗鬼となる。運よく、国道を下りる脇道があり、ダメ元でこの地点から

鉄道に近づくことにする。結果的に大成功であった。脇道を暫く下ると、民家が広がっていた。道筋で人と出会い、吹浦駅の道筋をお伺いする。「道なりに歩いた先に吹浦駅がある」とのことであった。11時24分、やっと吹浦駅に辿り着く。駅前には我国の鉄道開祖の佐藤政要養氏の像があった。



※吹浦駅への道筋



※吹浦駅への路、吹浦交番、吹浦駅



※吹浦駅前（佐藤政要養氏の像）

③ここから遊佐駅までは、どしゃ降りの雨に遭遇し、視界を閉ざされ、30分位水田の迷路に入り、相当のエネルギーを費やす。奇数・偶数の標識を目にする。困っていたところ、地元の人と運よく対面し、遊佐駅への道筋を教えてもらう。しかし、集中力が散漫になっていたのか、解釈を誤ってとんでもない方向に向かう。何となく変だと察知し、方針を変更する。すなわち、鉄道に近づく戦略に切り替える。大成功であった。暫く歩くと、前方に鉄道が現れ、安堵する。そして、鉄道に沿って歩いた先に遊佐駅があった。



※遊佐駅への道筋



※遊佐駅

④14時53分、岩川踏切を特急電車が通過して行く。14時58分、住吉神社を通過して暫く行った先で地図のロストに気付く。5分位戻った先で地図を見つけ安堵する。ロストに気がついた地点に戻って進もうとするが、15時8分、行き止まりとなる。岩川踏切まで引き返し、この踏切を横切り鉄道の右側を歩く。ここでも行き止まりの場面をくり返し、やっと15時46分、南鳥海駅に到着する。この駅で朝の車掌さんと再度対面する。



※南鳥海駅

⑤南鳥海駅を過ぎた辺りから、雨が強くなりかける。16時18分、448歩ある大正橋を渡る。雨でメモ取れず。県道60号線を進む。雨の中、やっとも本楯駅（16時46分）に到着する。6.4km先の酒田を目指す予定であったが、複雑な道筋の歩きは無理と判断し、この駅でアップする。



※本楯駅への路、大正橋、第二本楯踏切



※本楯駅への路、本楯駅

⑥不燃焼の気分で、酒田駅に戻る。ホテルに面した魚民で、本日の疲れを癒す。



第6節 8日目：7月2日（木）：本楯～鶴岡



※ホテル11階から見た酒田駅、鳥海山、ホテルの室内



※ホテルα1、いなほ号、酒田駅



※酒田駅、本楯駅

秋田・山形・群馬の旅の第8弾は、7月2日（木）、曇りのち雨の中、本楯駅から鶴岡駅までの営業キロ33.9kmに挑戦する。本日はリュックを背負った歩きであったし、余目から雨が降ったり止んだりした天候で、昨日と同様に厳しいものがあり、「鶴岡までの踏破は難しい」と思うこともあった。しかも、今回のシリーズ初の営業キロ30km越えである。しかし、藤島駅で酒田行きの列車まで1時間半位の待ち時間だったので、日没覚悟で不案内な道筋を進むこととした。結果的にはこの判断が功を奏し、一昨日、昨日の遅れを、一気に挽回する日となり、達成感で一杯となった。ただ残念なことは、最上川に気が取られ、幹線道路に面しており、今回のシリーズで唯一易しそうな北余目駅を未踏破としたことである。

本日の立ち寄り時刻は次の通り。

本楯（8:07）～酒田（10:15）～東酒田（11:31）～砂越（12:38）～北余目（あまるめ：未踏破）～余目（14:33）～西袋（15:56）～藤島（18:10）～鶴岡（20:13）

①本楯駅から酒田駅までは水田が多くあり、相当負荷を要すると考えていた。しかし、地図を分析し、高田踏切（8時43分）を横切り、国道353号線に合流（9時3分）したのが大成功であった。お蔭で迷うことなく、酒田駅（10時15分）に到着できる。恐らく、昨日の雨の中の環境では、このように円滑には歩けなかったであろう。正に「急がば回れ」の場面にピッタリであった。



※酒田駅への路



※酒田駅への路、酒田駅

②浜田歩道橋（新井田川：53歩）、若松公園、浜田踏切などを経由して東酒田駅に到着。砂越駅は水田の真ん中にあり、遠くから駅舎を確認できた。近くに、鉄道を跨る道路があった。



※東酒田駅、砂越駅への路



※砂越駅、最上川

③13時7分、酒田市から庄内町に入る。酒田市を含めこの境界の車のナンバープレートは山形ではなく庄内であった。15時15分、939歩ある庄内大橋（最上川）を渡る。天気の影響で水は濁っていたが、感動の余り、数人にSNSで画像を送る。そんな影響もあり、これから少し行った先にある、北余目駅が未踏破となる。この未踏破は、30分位行き過ぎて気付く。



※北余目駅境界、余目踏切、余目駅

④14時6分、余目踏切を横切り、鉄道の右側となる。水滴を少し感じる。リュックに黄色い雨具をかける。14時12分、余目八幡神社で本格的な雨となる。14時33分、余目駅に到着する。14時50分、JR線を越え、JR線の左側をくねくね歩いた先に西袋駅があった。雨はいつの間にか上がっていた。



※西袋駅、藤島駅への路

⑤西袋駅から藤島駅までの営業キロ 5.1 km に迷いに迷い、2 時間 14 分要する。判断ミスは、道路標識の読み違いであった。ここでも、鉄道から離れるリスクを改めて知る。一度迷うと迷路に入り、脱出するのに相当のエネルギーを要する。何人もの地元の人の応援でやっと藤島駅に到着できる。



※松嶺街道跨線橋、2 回目の橋、藤島駅

⑥ここでアップもありと、鶴岡行きの時刻表を確認する。次の酒田行きは 19 時 33 分であった。まだ、明るかったので、道筋は複雑であるが、有言実行を旗印に、6.6 km 先の鶴岡駅を目指すことにする。運よく幹線道路に出た先で、鶴岡市内の道路標識と対面する。少し遠回りになるが、到着できそうだと安堵する。国道 112 号線にぶつかった先で、信号待ちのドライバーの方に、念のため鶴岡駅への道筋をお伺いする。「どこまでも真っ直ぐ進んで下さい。川があります。その川を渡った先に、鶴岡駅への案内板があります。私も近くまで行きます。同乗はいかがですか。」の心温まるメッセージを頂く。「有難うございます。私は歩くために来ています。ご厚意は感謝します。」と丁重にお断りする。しかし、再度、信号が変わるや、私の前に停車し、「遠いですよ。乗りませんか。」の感謝感激の言葉があった。「有難うございます。道をお伺いしたので、頑張ります」とお礼を言い、親切なドライバーと別れる。すっかり暗くなった道筋の中、橋を目指し、ひたすら歩く。19 時 43 分、万歩計で 779 歩ある橋を渡る。19 時 51 分、2 度目の 105 歩ある橋を渡る。ここから、何人かの通行人の方に聞きながら、やっと 20 時 13 分、鶴岡駅に到着する。到達の瞬間、歩き鉄独特の達成感と感無量の気持ちで一杯となった。



鶴岡駅への路



※鶴岡駅

⑦駅前にあるアパホテルには20時23分チェックイン。ホテルで地酒を楽しめる店を教えてください。居酒屋”せいご”で本日の疲れを癒す。



※居酒屋”せいご”で晩酌！！

第7節 9日目：7月3日（金）：あつみ温泉～鶴岡 晴れ

秋田・山形・群馬の旅の第9弾は、7月3日（金）、今回初の晴れの中、あつみ温泉駅から鶴岡駅までの営業キロ 29.6 kmに挑戦する。風光明媚なあつみ温泉海岸線を堪能する。日本海はコバルトブルーの景観で最高であった。また、2000年5月から通算し、羽前水沢駅で**日本の鉄道の4割達成**となった。嬉しい限りである。今回の東能代からあつみ温泉までの締めとしていいご褒美をもらった心境で一杯となった。感動の余り、数人の友人に SNS で画像を送信する。



※鶴岡駅



※あつみ温泉駅

本日の駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

あつみ温泉（8:32）～五十川（10:53）～小波渡（12:15）～三瀬（13:15）～羽前水沢（15:23）～羽前大山（16:48）～鶴岡（19:24）



※あつみ温泉駅

①あつみ温泉駅から五十川駅までは、コバルトブルーに浮かんだ岩などの景観を堪能しながら進む。また、感動した場面の一例を SNS で画像する場面もあり。この区間は、今回の旅で天気よし風景よし温度よし (24℃) で最高の場面であった。営業キロ 5.9 km に約 2 時間を要し、ゆっくり歩く。特に、9 時 25 分暮坪橋の先にある、玄武岩でできた高さ 52m ある名勝「立岩」は強く印象に残った。種々のアングルから記録を撮りまくる。この立岩には神社があり、立ち寄ろうと思ったが、落石のため立ち入り禁止となっており残念な結果となる。



※あつみ温泉駅、あつみ温泉駅界限



※風光明媚な海岸線、52m の立岩



※暮坪、立岩

②五十川駅は二つのトンネルの中にあった。二つ目の 396m ある新五十川トンネルを通過した後にナビを確認し、行き過ぎであると判明する。それ故、このトンネル引き返えず。結果的には五十川駅は、五十川橋（10時33分通過）の手前を50m位国道7号線から離れた先にあった。このような体験は2月旅行した日豊本線でも同様な場面があった。懐かしい限りである。20分位ロスする。



※崖をフォロー、トンネル歩道、五十川駅



※五十川駅、新五十川トンネル、堅苔沢

③五十川駅から小波渡駅（こばと）までの区間も景観な海岸線を楽しみながら歩く。特に、眺望の波渡崎「堅苔沢」からの伝説の留棹庵島（11時16分）は印象に強く残った。大波渡、中波渡という地名もあった。地元の人に教えてもらった近道（急な勾配のある階段）を進んだ先に小波渡駅があった。



※小波渡駅への路、小波渡駅



※小波渡駅への路、鯨ヶ崎トンネル、三瀬駅

④小波渡駅から三瀬駅にかけては、二つのトンネル越えとなる。一つは、12時40分到達した315.7mの鯨ヶ崎トンネル(585歩)。もう一つは、12時54分到達した183mある釜石トンネル(273歩)。この区間からは海岸線とも別れ山間となる。この駅で、駅に備えつけてあるメモ帳に投稿する。このような投稿は、宗谷本線の間寒別駅などでも行った。12時27分、海岸線の締めとして、カモメの群れによる空中の舞は、強く印象に残るものがあった。



※三瀬駅、羽前水沢駅への路

⑤三瀬駅から羽前水沢駅までは、山の尾根を通り抜けて進む。山道のため、何度も地図とナビを点検しながら用心深く進む。13時33分、JR線を潜り鉄道の右側となる。14時35分、JR線を潜り鉄道の左側となる。ここからは山間から水田地帯となる。14時52分、JR線を潜り鉄道の右側となる。それにしても、歩いて歩いても山道また山道

であった。途中、20人位のグループに出会い、羽前水沢駅への道筋をお伺いする。「道なりに直進すれば行ける」とのことであった。山道の中で安堵する瞬間であった。15時、上り特急電車と対面する。15時23分、日本の鉄道の4割達成となった羽前水沢駅にやっと辿りつく。本日の区間で一番難しい区間であった。



※佐渡川踏切、羽前水沢駅

⑥羽前水沢駅から羽前大山までは、簡単かと思ったが、そうではなかった。羽前水沢駅を出発する否や水田が前方を遮り、迂回を余儀される。15時53分、県道38号線に出る。ひたすらこの県道を黙々と歩く。16時30分、万歩計で67歩の桁屋橋手前で地元の人と対面する。ラッキーにも、「この橋を渡って鉄道つたい歩きした方が近道ですよ」と教えて頂く。沿道には公的機関の施設があった。16時43分、桁屋踏切を横切り鉄道の左側となる。そして、鉄道沿いに歩いた先に羽前大山駅があった。駅前には大きな倉庫（大山文庫）があった。



※羽前大山駅への路、羽前大山駅

⑦17時3分、JR線を越え鉄道の右側となる。そして、幹線道路に出る。この路を道なりにどこまでも進む。また、鶴岡駅まで何人もの地元の人に聞きながら進む。17時21分、村社白髭神社前を通過。17時53分、天照皇大神前を通過。18時3分、鶴岡第一中学校前を通過。帰宅の途につく先生方と対面する。18時20分、西新町橋を通過。18時46分、鶴岡公園内にある、短冊一杯の荘内神社を参拝する。18時52分、鶴岡簡易裁判所前を通過。ここからも鶴岡駅は遠かった。18時56分、赤い三雪橋は渡らず通過。19

時 10 分、日枝神社の前で、直進先に鶴岡駅の標識があり安堵する。流石最上氏の城下町だけあり、また、山形県の第 2 の街だけあり、昨夜と好対照に想定外に賑やかな街並みであった。やっと 19 時 24 分、鶴岡駅に到着する。駅から見える夕焼けは強く印象に残った。これで東能代駅からあつみ温泉駅までの営業キロ 218.6 km が繋がった。



※村社白髭神社、荘内神社



※三雪橋、日枝神社、鶴岡駅

⑧山形の夜の締めは、昨日行った居酒屋”せいご”で寛ぐ。明日はいよいよ乗り鉄の旅で群馬県へ。



※幻想的な夕暮れ、”せいご”で締め